



東北ブロック

チーム循環型医療で宮城県南地域に在宅医療を届ける

●医療法人社団やまと やまと在宅診療所白石（宮城県白石市）

医療法人社団やまとは、4月1日に同法人11拠点目となる、やまと在宅診療所白石を開設した。

同法人は在宅医療を中心とした診療所を東北、関東、四国で運営しており、宮城県内においては仙台以北の地域に在宅医療を提供してきた。

院長に就任したのは、やまと在宅診療所大崎（宮城県大崎市）に

おいても開設から7年間、院長を務めた大蔵暢医師。大蔵医師とともにやまと大崎を運営してきた看護師や診療アシスタントもやまと白石の運営に参画し、これまで培ったチームワークと経験を宮城県南地域でも活かしていくという。

大蔵院長は次のように説明する。「やまとでは、広い地域で多くの患者さんを効率的に診療するために、医師と看護師、診療アシスタントの3つの職種

がチームを編成して医療を提供しています。

また、医師が不足している地域にも持続的に医療を届けるために、医師が都市部と医師不足地域を循環する仕組みをつくってきました。今回は、医師だけではなく『チームごと』地域間を循環します。開業直後から円滑な運営をするために、やまと大崎の熟練したメンバーが大崎市と白石市を移動して勤務するのです。今、やまと大崎には新院長に就任した



やまと在宅診療所白石の医療チーム

辻薫菜子医師をはじめ、診療所内外に多くの仲間が居て、やまと白石の開設にも協力をしてくれています」
今後は宮城県南地域でも、医療介護に関わる事業所だけでなく、行政機関などとも強固な連携関係をつくり、チームの輪を広げ、宮城県南地域で生活を営む方々が「安心してそこで古い、生き終えることができる地域づくり」を目指していくとしている。